

第 **27** 号…令和4年1月

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

3 新年のごあいさつ

4 寅年 年男、今年もよろしくお願ひします。

7 関東地域づくり協会からのお知らせ

令和3年度 災害復旧事業講習会

令和3年度 関東地方防災エキスパート支部別講習会

第34回 道のある風景写真コンクール

10 プロジェクトK③

地域の期待を背負い

多摩の自然を守りながら進めた道づくり

圏央道 東京都区間

14 関東の宿場町⑦

日光街道 小山宿 栃木県

16 関東の土木遺産④

水戸市水道低区配水塔 茨城県

18 会員のひろば

「琴棋書画」は君主の嗜み

19 会員情報

新会員紹介・お悔やみ

編集委員会だより

20 ピックアップ 関東の道の駅②

神奈川県西部の

観光名所を巡る中継地点に

道の駅「足柄・金太郎のふるさと」

表紙の言葉

鈴木望愛さん（松戸市立第五中学校1年生）

雪のつもった明るい道

この写真は、当協会が主催する第34回「道のある風景写真コンクール」で中学校の部金賞に選ばれた松戸市立第五中学校の鈴木望愛さんの作品です。

「この写真は、家族で秋田県仙北市へ旅行に行った時のものです。このとき、季節は冬だったため、旅館の古風な建物と雪でとても幻想的な美しい景色に魅了されました。雪山や、家、かまくらなどが写るように角度を変えたりして工夫をし、何度も撮り直しました。皆さんが行ってみたいと思えるような写真になっていたらとても嬉しいです」



理事長あいさつ 新年のごあいさつ

(一社)関東地域づくり協会 理事長
奥野晴彦



令和4年の年初に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。
今年も最初はコロナの話題で恐縮です。昨年秋口から小康状態を保っていましたが、年末から年始にかけ感染が急拡大し、第6波の到来かと思わせる勢いです。新しい変異株の影響もあり、欧米ではこれまでにない勢いで感染が拡大しています。ワクチンを接種した人にも感染が広がっているようで、なんとなく不安な新年を迎えたというのが正直なところでしょうか。我が国でも3回目のワクチン接種が始まっており、ウイルスの性質や症状等に関して、多くの情報が蓄積されていると思われますので、昨年夏のような医療危機に陥らないよう、願うばかりです。私たちとしても、必要以上に恐れることなく、感染対策の基本に忠実に、日常生活を送ることが大事だと思います。

コロナ禍の下、昨年も多く多くの災害が発生しました。梅雨前線や停滞前線の影響で長期間にわたって降雨がつづき、洪水、土砂災害などの被害が相次ぎました。7月に熱海市で発生した大規模な土石流は、記憶に新しいところです。

このように余り楽しくない話題があった中、開催についていろんな意見があったものの、オリンピック、パラリンピックで我が国の選手たちが大いに活躍したこと、また、野球やゴルフなど海外のスポーツでもめざましい活躍が見られたことは、沈みがちになる気分を高揚させてくれる材料になりました。

10月には、内閣交代があり衆議院選挙が行われました。当面のコロナ対策、コロナ禍でいたんだ国民生活や、経済の立て直しのための対策などが大きな争点でしたが、選挙後12月にはこれらの対策のための令和3年度補正予算が編成されました。過去最大規模の補正予算ですが、この中に、流域治水、災害に強い国土幹線道路、インフラ老朽化対策など防災・減災、国土強靱化等のための予算が大きく計上されています。また、今後審議される令和4年度予算政府原案においても、公共事業関係予算は昨年度当初に対し若干ではありますが増加しています。コロナ禍でいたんだ経済や社会活動を回復し、活力ある社会を構築するためには、災害に強い安全・安心な国土の構築、生活を支える各種インフラの整備が不可欠であるとの観点からの措置だと考えられます。

良好なインフラの整備、管理を担う整備局の役割はますます重要になっています。その組織、人員の充実策も引き

続き手当てされたことは誠に喜ばしいことではありますが、多くの方の期待にしっかりと応えるには、インフラ分野のDXの導入など、効率的な事業執行の取り組みと合わせ、民間のノウハウや技術の導入などを進める必要があると思います。我が協会もこれまで以上にしっかりと整備局を支える活動を展開していかなければなりません。

昨年の協会業務については、一昨年に引き続き在宅勤務、時差通勤、感染対策の基本の徹底などコロナ対策を講じつつ進めて参りました。収益事業については、マネジメント事業を昨年より1件多い9件実施しているほか、第三者品質証明事業、保険事業、試験関係事業などを例年通り行っており、コロナ禍の下ではありますが、これまでのところ概ね計画どおりの実績をあげています。

公益事業のうち防災事業については、防災エキスパートの活動支援、災害復旧技術講習会、地域防災力向上のためのさまざまな事業を実施しています。昨年は関東地域では大きな災害がなく、エキスパートの皆さんの災害時出動要請はありませんでしたが、災害に備えた施設点検などにご尽力いただきました。改めてお礼申し上げます。その他、地域活性化事業、環境整備事業など地域の皆様の取り組みをサポートしていますが、昨年も申し上げたとおり、コロナの影響から、多くの人が集まって活動する機会が持てないなどの理由で、例年に比べ、事業規模は小さくなっています。今年は以前のような活動がしっかり行われることを願っております。

さて、今年は協会が発足して10年目に当たります。協会の活動の基本は令和元年度の総会で報告しましたとおり「インフラの整備、管理や防災に関する技術、ノウハウを活用し、関東の地域づくりに貢献する」ことにあり、発足以来この基本に沿った事業を行って参りました。若干手探りの面もありましたが、なんとか所要の成果をあげて来られたと思っています。今年は、次の10年に向け、強固な地盤を構築しなければならない年であると考えています。職員一同、このことに向け、これまでの成果にあぐらをかくことなく、更に修練、努力を積んで参りますので、会員の皆様には、引き続きご指導、ご鞭撻いただくことをお願いいたします。

コロナ禍が一日も早く終息し、今年1年が皆様にとって素晴らしい年となりますことを祈念して、新年のごあいさつといたします。

令和4(2022)年

寅年

年男、
今年もよろしく
お願いします。

今年は良い年になりそうな予感

昭和25(1950)年生まれ

板倉典雄さん

元利根川上流河川事務所副所長

新年あけましておめでとうございます。

おかげさまで6回目の年男を迎えることができました。今年は九星の五黄土星と干支の寅が重なり五黄の寅年と言われ、36年に1度訪れる九星と干支の組み合わせとなるそうです。五黄の寅年は強運で強い意志や行動力を持つとされており、今年は良い年になりそうな予感がします（期待を込めて）。

この機会に今までの振り返ってみますと、関東地方建設局（整備局）では長く河川管理行政に携わり、訴訟（多摩川水害、河川転落事故など）業務や不法行為（国有地占拠、砂利盗掘、ゴミ・危険物の投棄など）対応、慣行水利権の法定化など、総務関係では本局庁舎の大宮移転業務などを担当しました。また、関東建設弘済会（現関東地域づくり協会）では、当時の政権による弘済会のあり方見直し要請を受け、新たな組織づくりに携わったことなどが思い起こされます。

この間、多くの先輩や同僚に恵まれ業務に従事できたことに感謝するとともに、家族の協力があってこれまで来られたものと感謝しています。

仕事を離れて4年経過しますが、現在は妻と共に野菜づくりに勤しんでおり、野菜は正直で手を掛ければすくすくと育つため愛着がわき、芽だしの時期は毎日畑に足を運んでいます。また時折、蕎麦やうどんを打つなどして気ままな生活を楽しんでいます。

一昨年からコロナ禍もようやく収まってきた感がありますが、新型のオミクロン株の感染拡大が心配され、油断は禁物。活動範囲は広げつつ、慎重な行動を心掛け、健康管理に留意し、充実した1年にしたいと思います。

結びに、会員の皆さま方におかれましては穏やかな良い年となりますようお祈り申し上げます。



いつの間にか 6回目の年男です

昭和25(1950)年生まれ

大嶋光男さん

国際航業(株)技師長
元二瀬ダム管理所長

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

私は昭和43年に建設省関東地方建設局に入省し、国土交通省を通じて主にダム、河川事業関係の仕事に携わってきました。

その間、河川情報センターに出向し、河川情報の大切さ、必要さを考える機会も与えてもらいました。また、再就職先のダム水源地環境整備センター（現水源地環境整備センター）では、半官半民の立場で主にダム湖の水質、堆砂関連などの環境問題、ダム建設の環境影響評価などの業務に携わりました。

現在は国際航業株式会社で、今度は民間として、それまでの経験したことを活かせる仕事をさせてもらっています。特に近年は、今までに考えられないような地震、洪水などの災害が全国で頻発していることから、国際航業が撮影した地震、洪水などの被災状況の写真を関係機関、関係者にいち早く提供し、被災箇所の現地調査を行うといった仕事をしています。

しかし気がつけば、いつの間にか6回目の年男になっていました。今まで病院通いはほとんどなく元気で過ごしてきましたが、健康診断では多少指摘されることもあるので、注意していきたいと思います。

現在は、荒川右岸23キロ付近（北区浮間）の堤防のすぐ横に、妻と2人で住んでいます。息子たち2人はすでに結婚して独立し、孫も女の子が2人、男の子が1人います。ちょくちょく来てくれるのが楽しみです。

堤防を散歩するときは、荒川下流河川事務所の防災エキスパートであることもあり、堤防点検を常に心掛けながら歩いています。



寅年を迎えて

昭和25 (1950) 年生まれ

きゅうはち

山崎久八さん

元東京国道事務所
工事施工管理官

新年あけましておめでとうございます。

協会を退職して早くも7年目に突入してしまい、6回目の干支を迎えました。

今年の寅は庚寅で「騎虎」

といい、千里を走る虎だそうです。そのせいで、現役時代は長距離通勤が多かったのかもしれませんが。60歳過ぎてから70歳までの間は、まさに急坂を転がるように時が過ぎた感じです。この歳まで無事に来られたのも、今まで私にかかわっていただいた皆さまのおかげと感謝しております。

退職後の私の日常は、気まぐれな散歩と主に雑用ですが、生活ゴミの分別処理や家の周りの草退治、庭木の剪定のほか、猫の額ほどの家庭菜園で季節の野菜を育てたりしています。

また、関東地域づくり協会の「第三者品質確保業務」の要員として、直轄工事に携わっております。工事はもっぱら河川工事を担当させてもらっています。河川堤防の築堤、環境整備工事などが多く、新技術を導入した施工など目まぐるしい土木技術の進歩を知ることができ大変勉強になります。

私は、いつも何かで社会とつながっていたいと願っています。日頃、業務を通じて建設会社の若手技術者から元気と刺激をもらっています。これも健康維持に役立っているのかなと感じています。

私ごとですが、最近、新たな挑戦として、近くの自動車教習所に通い「普通二輪小型限定 (125cc)」の運転免許を取得しました。この歳になって今さらと思われるかもしれませんが、自動車では味わえない新鮮な感覚と、自然をよりいっそう直接肌で感じられるところが魅力で挑戦したのです。家族には記憶力と運動神経の確認のためと説明し、どうにか理解してもらいました。

自動車教習所はほとんどが10～40代の方で、70代は私だけだったかもしれません。少し恥ずかしかったのですが、運良く難関の「一本橋」もクリアし、技能検定に合格しました。今後、季節の良い時期になったら、県内や県外の野山など気ままにソロツーリングに出掛けたいと思っています。

昭和の時代、歌謡曲番組の名司会者が前口上で口にするフレーズに「老いたる者には呼べど還らぬ青春の日々……」というのがありましたが、老いても少しでも青春を取り戻す気持ちで楽しみを見つけながら過ごしていきたいと思っています。



「合縁奇縁～逢縁喜園」 健康第一！

昭和37 (1962) 年生まれ

笠原治夫さん

村本建設(株)東京支店
元河川部総合土砂管理官

新年あけましておめでとうございます。

投稿依頼を受けたとき、「自分も60歳、還暦か～！」と痛感しました。昭和56年に親元を

離れ、利根川水系砂防に就職した若輩者ですが、昨年4月に早期退職し、6月から村本建設東京支店でお世話になっております。

思い起こせば公私ともにさまざまな経験をし、良きも悪きも「合縁奇縁」と感じた次第です。砂防・河川・地下河川・ダム・海岸・企画の業務、TEC、テニス・ゴルフ等々を通して多くの人と出会い、苦楽を共にしたお酒の会は、やがて「〇〇会」と称して今も続いていることに感謝、「ありがとうございます！」です。

抱負としては、「健康第一で、第二の人生を楽しく過ごしたい！」と思っています。

平成13年に地元のテニス愛好会に入会、平成15年の厄年にはぎっくり腰を機にジム通いを始めました。平成18年にはゴルフ会員権購入、HC14と15を取得。平成23年には右肩鎖骨折、平成27年は左手首遠位端骨折。体力の衰えを感じています。アルバトロス (非公式)、36・39のベストは過去のプチ自慢、今は100切りに満足しています (笑)。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で「お酒の会」も激減してしまいました。最近、自宅近くのお店「逢縁喜園」で毎週火曜日に「ポップ会」という呑兵衛会を楽しんでいます。

最後に、新型コロナウイルス感染症の終息と、いろいろな「〇〇会」の復活、皆さまとの再会を願うとともに、新しい職場やOB会での出会いを大切にしたいと思っています。

皆さま、本年もよろしくお願いいたします！



還暦を機に 新たな趣味探し!

昭和37(1962)年生まれ

市川明広さん

(一社)関東地域づくり協会
元関東技術事務所総括構造物
維持管理官

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に国土交通省を早期退職し、6月より(一社)関東地域づくり協会に勤務しています。今年の10月で還暦を迎え、「光陰矢の如し」を実感しています。

建設省への就職が決まり、常陸工事事務所へ配属され、群馬の片田舎を出て水戸で寮生活を始めたのが今から42年前のこと。それ以降、仕事仲間・職場環境に恵まれて、おかげさまですっかりお酒好きな体質になってしまいました(笑)。

昨今は新型コロナの影響で飲む機会がめっきり減り、医者からも「数値がとってもいいですね」と褒められる始末。“趣味は?”と聞かれると、ここ十数年は「仲間でワイワイ飲むお酒」と答えてきた私にとって、思いもよらない展開に戸惑いが隠せません。還暦を迎えるこの機会に、他に趣味を見つけようかと振り返れば、これまではスポーツや楽器演奏、ゲーム、キャンプ、パチスロ、カラオケ……何でも来いというほど多趣味であったにもかかわらず、どれも下手の横好きだったためか、1つ減り2つ減り、最後まで残ったのがお酒でした。「う～ん、これは下手の横好きではなく真剣に好きだったということか? 終いにはアル中になってしまう……」と危機感を覚えつつ、真剣に打ち込める趣味を見つけようかと思っていますが、今の体力ではスポーツはNG、近所&家族迷惑で楽器演奏もNG、子供に子供のようにあしらわれるのでゲームもNG、カラオケは結局酒に走るのでNG。そんなこんなで最近健康増進を兼ねてロードバイクで本格的なサイクリングに熱い視線を送っています。もともと出不精で優柔不断な性格なので焦らずじっくり見つけたいと思っていますがどうなることやら。サイクリング雑誌を読みあさる片手には気づけば今日もビールジョッキが握られていました!



世の中への“恩返し”の スタート年に!

昭和49(1974)年生まれ

山科清和さん

(一社)関東地域づくり協会
業務企画部技術主任

鏝阿寺にて、子供たちと

新年あけましておめでとうございます。

上司や諸先輩方、同僚など、さまざまな方のサポート、ご指導のおかげで、4度目の干支を迎えることができました。この場を借り、厚く御礼申し上げます。

新年にあたっての私の抱負ですが、漠然としています。世の中に対して少しでも“恩返し”を始める、スタートの年にしたいと思っています。寅年はチャレンジの年らしいので、大きな目標としました。

実は、今年の抱負を考えるためにパソコンに向かってみると、3度目の年男のときにも抱負を語ったことを思い出しました。パソコンの中には何でもあるもので、「〇kgやせること」と記載されていました。幸い、12年の歳月の中で目標数値をぎりぎり達成していましたが、前回の抱負は自分のことだけしか考えていなかったと、少し反省しました。

今年の抱負を12年後に振り返ったとき、何ができているかはまだ分かりません。世の中の流れは「まさか」の連続で、近年は、自然災害やイベントの中止など、不幸なことが続いた気がします。しかし、私個人としては、幸せなことが続き、充実した月日を過ごすことができました。そんなこともあり、令和4年寅年は、感謝の気持ちで世の中に少しでも貢献できたらよいと思いました。

大きな目標を勝手に立てたために、今年はさらに皆さまに迷惑をかけてしまうかもしれませんが、皆さま、よろしくをお願いします。



令和4(2022)年

寅年

年男、
今年もよろしく
お願いします。



令和3年度 関東ブロック 災害復旧事業技術講習会を開催しました

令和3年10月22日（金）、当協会および公益財団法人とちぎ建設技術センターの主催により、赤羽会館講堂（東京都北区）において「災害復旧事業技術講習会」を開催しました。昨年はコロナ禍によりWebでの開催となりましたが、今年度はマスク着用やアルコールによる手指消毒、体温測定など、感染予防対策を徹底した上で会場で開催しました。密を避けるため募集人数を収容定員の半分以上とし、間隔を空けた座席配置にしたこともあり、179名と例年より少ない受講者となりました。



■ 講義内容

- 「災害復旧事業制度」
成田秋義氏（国土交通省水管理・国土保全局防災課総括災害査定官）
- 「災害復旧事業の基本原則」
原田隆二氏（国土交通省水管理・国土保全局防災課災害査定官）
- 「災害復旧事業における留意事項」
戸倉健司氏（（公社）全国防災協会災害復旧技術専門家）
- 「令和元年度東日本台風における栃木県の被災状況と県の取り組み」
渡辺明恵氏（栃木県土木整備部河川課県土防災対策班災害チーム課長補佐）
- 「関東地方整備局の災害対応」
中谷文治氏（国土交通省関東地方整備局災害対策マネジメント室長）

- 【主催】 一般社団法人 関東地域づくり協会
公益財団法人 とちぎ建設技術センター
- 【共催】 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 関東支部
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
関東地区協議会・東京地区協議会
一般社団法人 関東地質調査業協会
- 【後援】 国土交通省 関東地方整備局
栃木県
公益社団法人 全国防災協会

令和3年度 関東地方防災エキスパート支部別講習会を実施

平成21年4月28日付で当協会（当時：関東建設弘済会）と国土交通省関東地方整備局との間で締結した「関東地方防災エキスパート」制度に関する協定に基づき、防災エキスパート活動の円滑化を目的として、支部別に講習会を実施しています。

今年度は、水戸、高崎、甲府、長野支部では午前の講義の後、午後から現場見学や講演を実施しました。首都圏四支部合同講習会については、昨年同様新型コロナウイルス感染防止のためWebでの講習となりました。



甲府支部での実施状況



国道20号法雲寺橋上部工事
現場視察

■ 令和3年度 関東地方防災エキスパート支部別講習会実施状況

支部名	参加者数	実施日	講習会場	関東地方整備局講師	現場視察等
水戸支部	30名	12月3日（金）	土浦亀城プラザ	遠藤武志氏（防災室長）	霞ヶ浦導水路整備事業
宇都宮支部	20名	12月9日（木）	ブライダルパレスあさの	小嶋正一氏（防災情報調整官）	—
高崎支部	31名	12月13日（月）	ビエント高崎	中谷文治氏（災害対策マネジメント室長）	渋川西バイパス
大宮支部					
四支部 千葉支部		12月28日	Web講習	五十嵐一夫氏（総括防災調整官）	水管理・国土保全局防災課災害対策室 リエゾンの支援活動用研修プログラム
東京支部		～			
神奈川支部		2月10日			
甲府支部	23名	12月2日（木）	ペルクラシック甲府	高田昇一氏（防災対策技術分析官）	大月BP改良工事・法雲寺橋上部工事
長野支部	15名	12月16日（木）	J A 長野県ビル	高田昇一氏（防災対策技術分析官）	講演「自然災害後の橋の応急復旧活動」 近広雄希氏（信州大学工学部水環境・土木工学科助教）
合計（四支部以外）	119名				

第34回 道のある風景写真コンクール

私たちの生活に欠くことのできない道。小中高校生を対象とした「道のある風景写真コンクール」も今回で34回目を迎えました。

今回も日常生活での写真、動物とのふれあいの写真、工夫して撮影した写真など、いろいろな一瞬を切り取った「道」のある風景の写真を応募いただき

ました。今回は昨年同様コロナ禍での募集となりましたが、昨年より多い1,563人から2,864枚の応募がありました。

写真家の木村恵一先生、加藤雅昭先生、そして関東地方整備局道路部の近藤進道路情報管理官、当協会の後藤敏行専務理事の4名による審査で入賞作品が決定しました。

審査風景



入賞作品は関東の道の駅などで展示を予定しています。

主催：(一社)関東地域づくり協会／協力：国土交通省関東地方整備局

金賞

小学校の部

「土手から空へ」浅野駿介(あさのしゅんすけ)さん

茨城県 茨城大学教育学部附属小学校2年



中学校の部

「雪のつもった明るい道」

鈴木望愛(すずきのあ)さん

千葉県 松戸市立第五中学校1年

高等学校の部

「秋を見つけて」

黒田あかり(くろだあかり)さん

群馬県 群馬県立前橋工業高等学校2年



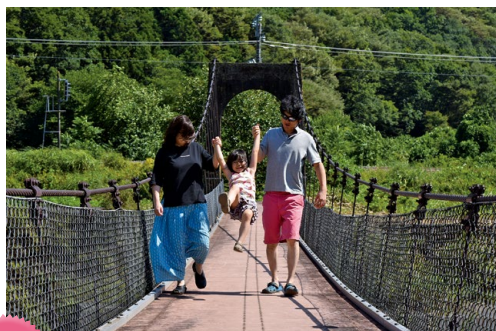
学校賞

小学校 茨城大学教育学部附属小学校

中学校 松戸市立第五中学校

高等学校 群馬県立前橋工業高等学校

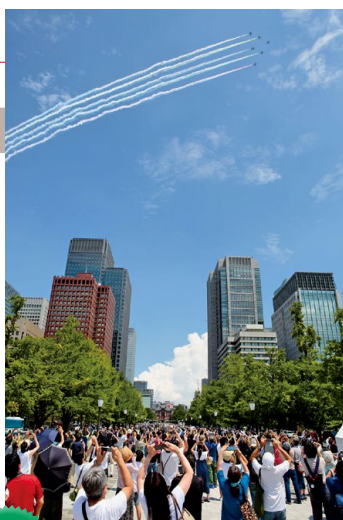
銀賞



小学校の部

「大ジャンプ」

笠井煌実 (かさいこうま) さん
山梨県 市川三郷町立六郷小学校5年



中学校の部

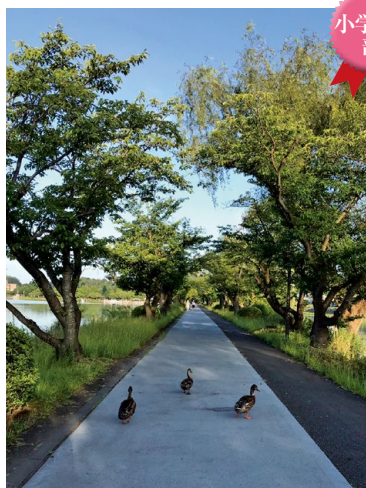
「想いよ届け」

東康輝 (あずまこうき) さん
埼玉県 春日部共栄中学校2年

「好きな場所」

中学校の部

鳥家千寛 (とやちひろ) さん
千葉県 松戸市立第五中学校1年



小学校の部

「カモの親子のさん歩」

園部優穂 (そのべゆうほ) さん
茨城県 茨城大学教育学部附属小学校3年

「桜舞う春の道」

金井愛実 (かないまなみ) さん
栃木県 栃木県立鹿沼商工高等学校3年

高等学校の部



高等学校の部

「道草」

細田美羽 (ほそだみわ) さん
千葉県 千葉県立千葉商業高等学校2年

銅賞

小学校の部

「なにをとっているのかな」	金井政親さん (かないまさちか)	神奈川県 横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校3年
「ぼくはカメラマン ～ひまわりに囲まれて～」	浅野さゆりさん (あさのさゆり)	茨城県 茨城大学教育学部附属小学校4年
「朝のおみおくり」	井上優さん (いのうえゆう)	埼玉県 さいたま市立上木崎小学校4年
「Sunset's way」	辻莉唯菜さん (つじりいな)	神奈川県 横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校5年
「桜の散歩道」	鈴木輝久浩さん (すずききくひろ)	茨城県 茨城大学教育学部附属小学校6年

中学校の部

「つかまえたー!」	山下まりあさん (やましたまりあ)	神奈川県 二宮町立二宮西中学校3年
「家族と海へ」	高延日葵さん (たかのひな)	千葉県 松戸市立第五中学校2年
「白線とねこ」	和田のかさん (わだのか)	群馬県 高崎市立倉渕中学校1年

「どこへつれていこうか?」

「The ワープ!」

高等学校の部

「ママー!」

「共に」

「心の距離」

「青春を翔ける」

「踏み切りを越えたら」

谷島春香さん
(たにしまはるか)

笠井あずみさん
(かさいあずみ)

菊田菜々海さん
(きくたななみ)

古川由佳さん
(ふるかわゆか)

佐藤優月さん
(さとうゆづき)

彦坂柚来さん
(ひこさかゆこ)

森結衣さん
(もりゆい)

埼玉県 さいたま市立大成中学校3年

山梨県 市川三郷町立六郷中学校2年

茨城県 茨城県立下妻第二高等学校3年

東京都 共立女子高等学校2年

群馬県 群馬県立前橋工業高等学校2年

東京都 共立女子高等学校2年

埼玉県 埼玉県立不動岡高等学校2年

地域の期待を背負い、 多摩の自然を守りながら 進めた道づくり 圏央道 東京都区間

会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、
苦労や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。
第43回は、圏央道東京都区間の建設に携わった
柳橋則夫さん、石井武さんにお話を伺いました。



柳橋則夫さん

一般社団法人プレストレスト・コンクリート
建設業協会副会長兼専務理事。昭和
57年入省、首都高速道路(株) 執行役
員(出向)を経て平成30年に退職。

石井武さん

鹿島道路株式会社技師長。昭和49
年入省、道路部道路情報管理官を経
て平成26年に退職。





① 圏央道東京都区間の中間に位置するあきる野IC。南は八王子西ICを経て八王子JCTで中央道と接続し、高尾山ICを経て神奈川県に至る。北は日の出IC・青梅ICを経て埼玉県へ(平成19年の様子)
(写真提供: 相武国道事務所)



② 平成17(2005)年3月21日の開通式。
石原慎太郎都知事(当時)があいさつした
(写真提供: 相武国道事務所)

反対派説得のため、約束を果たす！ 環境保全対策の検討を重ねた

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)は、首都圏の交通網の一翼を担う重要な環状道路の一つであり、長年にわたり全線開通に向けて施工が進められてきた。この圏央道の東京都区間(国道20号から埼玉県県境まで)22.5kmの都市計画決定がなされたのは、平成元(1989)年3月のことである。

柳橋則夫^{やぎはし}さんは、その前年である昭和63年7月に相武国道事務所の調査課長に着任した(平成2年3月まで)。

「当時は、ちょうど圏央道の都市計画決定の手続きをしている最中。環境影響評価書の完成版を作り、年明けの都市計画審議会のための対応を行いました」(柳橋さん)

都市計画決定後、測量・地質調査を進めるため事務所は新たな体制になり、調査課は圏央道専門の調査第二課とその他の業務を担当する調査第一課に分かれ、柳橋さんは調査第二課の課長となった。

石井武さんは、平成元年7月から平成3年8月まで調査第二課の調査係長として同事務所に勤務。赴任してすぐ、

柳橋さんと共に、沿線の20箇所で開いた測量・地質調査説明会に出向くことになった。

「住民の中には賛成の方もいれば反対の方もいましたね。反対派の主張は、圏央道は自然を壊すのではないかという懸念から発していました。圏央道東京都区間が通過する多摩地域は森林や溪流に恵まれた自然の豊かな土地で、高尾山もある。そういう場所に道路を通すのは許せないという人はやはり多かったです」(石井さん)

「当時は“道路建設=環境破壊”というイメージで捉えられていたんですね。しかし、首都圏の都市内が大渋滞になったら排気ガスは大変な量になり、環境の面からもひどいことになる。環状道路で交通量を分散の方が環境のためにもなると繰り返し説明したのですが、なかなか分かってもらえませんでした」(柳橋さん)

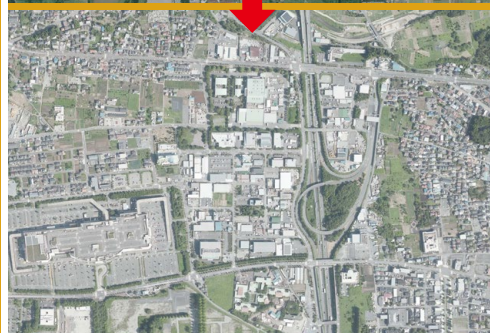
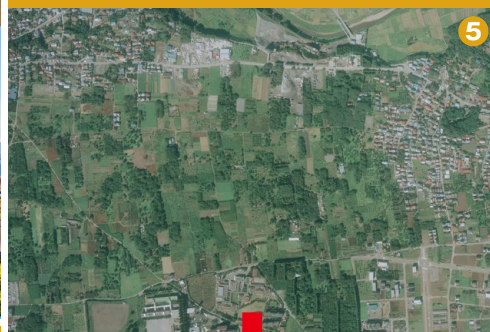
とはいえ、沿線の自治体はどれも賛成で、説明会や用地交渉にも役所の職員が協力してくれたそうだ。「国の人間だけで行っても地元の人の顔が分からない。地元の役所の職員がいてくれることは大いに力になりました」と柳橋さんは振り返る。だが、20箇所のうち3箇所は合意が取れず、後々、工事が始まって用地が取得できない、そ



③ あきる野ICの南側、秋川に架かる秋川高架橋。風光明媚な景観に合わせ本線の橋脚を鼓型にした

④ あきる野ICのランプ部の橋脚も、景観になじむよう八角柱にデザイン

⑤ 日の出ICの開通前(上)・開通後(下)の様子。沿線自治体では圏央道を柱にした街づくりが行われ、雇用創出や税収増につながった
(出典:国土地理院撮影の空中写真/1989年・2019撮影)



のため工事が進められないという状況になってしまった。

反対派もいる中で事業を進めるため、環境保全についての意識は最初から相当高かった。測量・地質調査を開始すると同時に、多摩地域の植物やオオタカをはじめとする動物を守る「植物委員会」「動物委員会」、自然豊かな景観を守る「景観委員会」、自然環境への影響を抑えながらトンネルを施工するための「トンネル技術検討委員会」を立ち上げ、識者の意見を聞いた。これらの委員会は着工後も継続され、課題が出るたびに議論が重ねられることになった。

特に最初から緊張感を持って取り組むことになったのは、国指定史跡である八王子城跡や高尾山薬王院の直下を通るトンネルなどの水環境の保全だ。

「汗は出してもいい。涙を出してもいい。しかし、トンネル掘削で水は出すな!」。石井さんは、赴任当初に柳橋さんから言われたこの言葉を、今でもよく覚えているという。

水環境の保全に細心の配慮を行った八王子城跡トンネル

柳橋さんと石井さんが次に相武国道事務所で一緒に働くことになったのは平成12(2000)年4月。柳橋さんは事務所長として平成10年4月から平成13年4月まで、石井さんは工務課長として平成12年4月から平成14年3月まで、再び圏央道東京都区間の建設に携わるようになった。

平成12年頃は工事のまっさかり。柳橋さんは「しっかり

工事を進めてくれる人に工務課長として来てもらいたかった。最初の調査のこともよく分かっている石井さんが来てくれて、ありがたかったです」と話す。

「平成12年時点で、あきる野ICの南側にあたる秋川には高架橋の橋脚ができていたのを覚えています。青梅IC～あきる野IC区間は90%以上の用地が取得でき、施工も進んでおり、残っていたのはあきる野IC付近のごくわずかな部分。残りの用地をなんとか取得し、一日も早く開通しなければならぬという状況でした」(石井さん)

圏央道は街づくりの軸にもなる。沿線自治体からの期待は大きく、「早く開通させてほしい」という熱い要望が寄せられていた。そもそも、進捗は計画から既に3年も遅れており、開通できないことによる損失は莫大であったという。

ネックになっていたのは、強く反対する人々が所有していたわずかな土地。そこで講じられた手段が土地収用法に基づく手続きだ。平成12年には一部の未取得用地の取得に向けて土地収用法第35条の手続きが行われ、石井さんもあきる野ICの北側の土地で立入調査を行った。

一方で、施工の中心はあきる野IC～高尾山IC間に移っており、次の開通に向けて工事はどんどん進んでいた。

そこで最も苦勞したと石井さんが思い出すのは、八王子西ICと八王子JCTの間に位置する「八王子城跡トンネル」である。多摩地域を通る同ルートは地形的にトンネルが多く、トンネル同士をつなぐのは橋梁だ。全線にわたっ



⑥ あきる野IC付近は開通から十数年、植樹された木々が大きく育った。「潜在自然植生といって、もともとこの地にある植物は、土地の気候風土に合って育ちやすいそうです。検討委員会の提案を採用しました」(石井さん)



⑧ ⑨ 八王子城跡トンネル施工中の様子。水圧で地下水が流れ出ないように最新の技術を駆使して施工した
(写真提供: 相武国道事務所)



⑦ 最も苦勞したという八王子城跡トンネルを望む。トンネルが通る城山には国指定史跡の八王子城跡、御主殿の滝など重要な文化財がある



て施工は難しかったが、中でも八王子城跡トンネルは環境保全にも特に気をつかう場所だった。

「トンネル上部には、国指定史跡の八王子城跡があります。山頂に近い尾根部に史跡の一つである『坎井』(古井戸)が、谷部を流れる城山川の下流部には『御主殿の滝』があり、トンネルは城山川の上流部地下を通過するので。そのため、トンネルを掘って水が抜けてしまったら上部の森林に影響するのではないかと、計画当初から心配されていました。施工にあたっては水環境の保全を最重要課題と認識し、当時の最新技術・工法を採用し、覆工止水工のトンネルとしました」(石井さん)

柳橋さんも、八王子城跡トンネルの気苦勞をこう語る。「トンネルは、実際に掘り始めて、地質などを詳しく調べて対策を積み上げていくことで効果的な施工ができます。ちょうど石井さんが担当した平成12年頃の工事が一番大事でしたし、苦勞が大きかったことは間違いないでしょう。水が少しでも出たらいったん工事を止めて対策を検討し、影響が最小限になるようにしていました。無理して進めたら道路そのものが造れなくなるぞという意識を皆が持っていましたね」(柳橋さん)

首都圏の交通を分散し 絶大な経済効果を発揮する環状道路

環境保全に用地取得、そしてトンネル施工と、さまざまな苦勞が詰まった圏央道東京都区間は、平成14(2002)

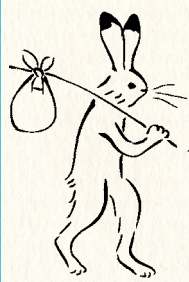
年3月に青梅IC～日の出IC、平成17年3月に日の出IC～あきる野IC、平成19年6月にはあきる野IC～八王子JCTが開通。最後の区間、八王子JCT～高尾山ICが開通したのは平成24年3月であった。

反対派の人々とも意見を交わし、「やってくれ」と請われた対策はできる限り実行した。高尾山薬王院とはよい関係を築くことができ、柳橋さんが事務所長であった時期には、工務課長の石井さんと調査第二課長、用地課長と4人で滝行に参加したこともあったそうだ。

二人の話ぶりからは充実した楽しい仕事だったように聞こえるが、「いやあ、当時はちっとも楽しくない!」と柳橋さんは苦笑い。終わってから、苦勞を共にした仲間と飲みながら当時のことを話すのは楽しいが、やっているときはつらいことも多かった。完成してやっと「供用できてよかった」「一端を担えたのは誇りだ」と思えるそうだ。

「圏央道を含めた“首都圏3環状”がきちんと出来上がれば、体系的な交通網が整います。それに向けて、圏央道の残りの区間をつなげ、暫定2車線区間を本来の4車線(一部6車線)にして、首都圏の骨格になる道路を造り上げてほしいですね」(石井さん)

「もともと昔の構想(首都圏基本計画)では、圏央道と東京外環の間に、環状道路がもう一本計画されていました。それはまだ手がついていません。いつかは、われわれの後輩たちが未来に向けて新しいプロジェクトを立ち上げるときが来るのかなと期待しています」(柳橋さん)



五ヶ所追分と呼ばれた 小山宿

江戸時代、東海道などの
街道に設けられたのが宿場です。

旅人を迎え送り出した宿場の古今の様子を、
関東地方の各地に訪ねるシリーズ。
第7回は日光街道12番目の宿、小山宿です。



旧日光街道は小山宿通りとして整備されている



広重が描いた「日光道中 小山」
(足立区立郷土博物館所蔵)

徳川家との深いつながり

日光街道(道中)は五街道の中でも特に徳川家(徳川幕府)と縁が深い街道でした。聖地となった日光東照宮と江戸とを結ぶ道だったからです。とりわけ^{おやま}小山宿は徳川家との結びつきが強く感じられる宿場です。

その始まりは慶長5(1600)年、徳川家康による会津の大名・上杉景勝征伐でした。会津に向かう途中で石田三成の挙兵を知った家康は、小山においてどうするか評定を開きました。有名な小山評定です。評定によって会津攻めは中止。すぐに江戸を経由して関ヶ原に向かい、三成率いる西軍を破って徳川家の覇権は確立したのです。小山評定がどこで行われたのかは諸説あり、確実な場所は分かっていません。現在は小山市役所前に「史跡 小山評定跡」の石碑が立っています。付近には家康が戦勝を祈願したといわれる須賀神社があります。

小山宿には、家康を祀る日光東照宮に社参する將軍一行を迎える休憩施設として小山御殿が建てられました。元和8(1622)年に2代將軍秀忠が日光社参の折に建設したといわれています。將軍の日光社参は江戸時代を通じて19回行われています。社参は当初は簡素なものでしたが、次第に盛大となり経費も莫大になったため、寛文3(1663)年にいったん中断。その後再開されたものの、天保14(1843)年の12代

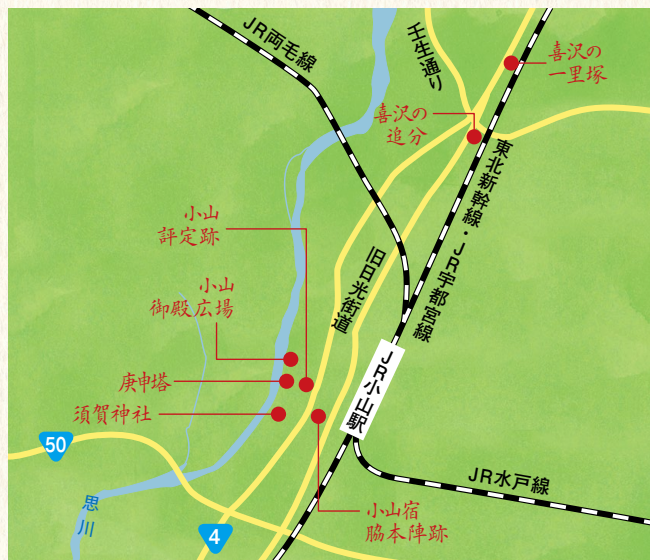
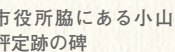
將軍家慶の社参が最後となり、小山御殿は中断後の天和2(1682)年に解体されました。解体時の資料によれば畳数は416畳あったとされ、小山御殿の大きさがしのべれます。

交通の要衝として大きな役割を果たす

小山宿は南北に12町13間(約1.3キロ)広がり、本陣1軒、脇本陣2軒、旅籠74軒がありました。日光街道の宿場としては宇都宮に次ぐ大きさです。特筆すべきは地域の5つの街道が交わる交通の要衝だったこと。そのため小山宿は五ヶ所追分(五街道追分)と呼ばれました。

主たる街道は小山宿を南北に貫く日光街道(奥州街道)であり、宿の北部の喜沢^{きざわ}でやはり日光に通じる壬生通り(日光道中壬生通り・日光西街道)が分岐しています。壬生通りは古くからの日光参詣道。東照宮造営に際しても各地から輸送された資材は小山宿近くの思川乙女河岸で陸揚げされた後、壬生通りで日光まで運ばれました。將軍の日光社参にも使われた由緒ある街道です。両街道の分岐点(喜沢の追分)には古い石碑があり、「右奥州 左日光」と彫られています。

紬で有名な結城と結んでいたのが結城道。下野国西部の佐野、栃木と結んでいたのが佐野道、栃木道です。小山市役所脇の清水坂下には佐野道、栃木道が分岐する追分にあった庚申塔が残っており、「右栃木 左佐野」と彫られています。人も物も小山宿で集まり散じていたのです。



待ち望まれた近代水道

水戸市にある低区配水塔は昭和7(1932)年に敷設された近代水道の施設です。水戸の水道の歴史は江戸期に始まります。那珂川や桜川などが流れる水戸は、漁猟や水運による恩恵を受ける一方、飲料水の確保に頭を悩ませていました。台地と低地からなる水戸の独特の地形が、それぞれの土地に住む人々に水質や水不足などの問題をもたらしていたのです。寛文3(1663)年、水問題を案じた徳川光圀の命により笠原水道が造られます。湧き水を水源とする笠原水道は、低地である下町(現下市地区)の人々に水を供給。明治維新により藩が解体された後も住民有志の手で管理され、247年にわたり使われ続けました。

明治30(1897)年頃になると、笠原水道は老朽化や湧水量の減少が目立ち、新たな水道を希求する機運が高まります。市当局は明治36(1903)年に下市地区全域を対象とする近代水道の敷設を議決。しかし翌年に勃発した日露戦争の影響などにより起工は遅れ、明治43(1910)

年になってようやく下市水道(簡易水道)は竣工します。ところが翌年には断水や減水などにより問題が再燃。水源の拡張などを行うものの、水利の便の悪さから大火の被害が相次ぐなど、市全域に給水する近代水道を望む声は大きくなっていきました。そして大正13(1924)年、鈴木文次郎が市長に就任すると停滞していた水道事業を強力に推進、昭和5(1930)年ようやく起工にこぎつけます。

意匠に込められた思い

水道敷設にあたって設置された臨時水道部には、地元をはじめ各地から優秀な技師が集められました。低区配水塔を設計した後藤鶴松もその一人です。後藤は配水塔公営所の主任技師として着任。工事監督を務めるとともに高区・低区配水塔の設計を行いました。

後藤は高区配水塔を機能性に特化して造り上げたのに対し、低区配水塔には美しい意匠を施しました。配水塔の構造を外壁で覆い、2階にはバルコニーを設置。ロマネスクやゴシックといったヨーロッパの建築様式を取り入



関東の土木遺産 第44回

近代水道にかけた市民の思いを伝える

水戸市水道 低区配水塔

茨城県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。



それらの土木遺産の中でも特に価値があるとされる選奨土木遺産。第44回は茨城県水戸市にある水戸市低区配水塔です。

水戸城跡や弘道館など歴史ある建物に囲まれて立つ低区配水塔。モダンな意匠はひときわ目を引く



れ、造形や装飾に生かしました。工事の仕様書に記されたエントランスの施工指示には「圖面ノ通り線形模様ヲ付シ入念仕上クヘシ」とあり、力の入った設計であったことがうかがえます。さらに敷地内には庭も造られ噴水も設置。公共施設とは思えないこのモダンな建物は評判を呼び、観光名所として多くの人が訪れました。

低区配水塔の意匠について、土木学会関東支部茨城会理事の澤島守夫さんは「近代水道ができた喜び、そして敷設に携わった人々の思いを物語ろうとしたのかもしれない」と話します。「低区配水塔は配水対象の地域よりも高地にあるため、タンクを上部に上げる必要はありません。あえて“配水塔らしい形”にすることで、近代水道の施設であることをモニュメンタルに示したとも考えられます」

人々の暮らしを見守り続けて

昭和7(1932)年、ついに竣工した近代水道が給水を開始。人々は喜びのあまり、蛇口から流れ出る澄んだ水をいつまでも眺め続けたといいます。近代水道がもたらし

た恩恵は、衛生的な飲料水だけではなく。敷設後の水戸市の火災損害額は敷設前に比べ67%も減少、防火にも大きな威力を発揮しました。低区配水塔の壁面には水道の防火機能を知らしめるかのように、消防ホースのレリーフが刻まれています。

その後も長きにわたり、低区配水塔は水戸の人々を支え続けます。戦時中の大空襲を生き延び、昭和60(1985)年には近代水道百選に、平成8(1996)年には国の有形文化財に登録されます。同時期に造られた水道施設が次々と廃止される中で稼働を続け、平成11(1999)年ついにその役目を終えます。そして「鋼製水槽を内蔵する鉄筋コンクリート造り」の構造と「外壁の装飾」そして「近代水道にかける市民の思いが込められた施設」であるとして、平成26(2014)年に選奨土木遺産に認定されました。

「低区配水塔は水戸の近代水道のシンボルとして、今も地域の人々に愛され、大切にされています」と話すのは水戸市教育委員会の米川健太さん。近代水道への人々の思いを未来へ届けるかのように、低区配水塔は今も水戸の人々の暮らしを見守り続けています。

エントランス。梅に「水」の文字を配したエンブレムとともに、線形や波、バルメット(植物文様)らしき装飾も施されている



消防ホースがモチーフの外壁のレリーフ

1階は事務所として使っていた。アールデコ調のシャンデリアやテーブルセットがある(水戸市上下水道局『水戸市水道工事写真帖』より／提供:水戸市)



低区配水塔建設に力を尽くした後藤鶴松。起工式当日に誕生した娘は「塔美子」と名付けられた(小貫写真館『水戸市水道写真帖』より／所蔵:高橋洋一)



配水タンク。当時は大型プレス技術はなく、三角形のパーツをリベット接合して丸底にした



敷地内にあった庭と噴水。水を噴き上げるカエルや水辺に憩う鳥のオブジェが置かれていた(水戸市上下水道局『水戸市水道工事写真帖』より／提供:水戸市)



配水塔2階内部。役目を終えた今は、ひっそりとして荘厳な佇まいである

会員のひろば

このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです



色絵七賢人 琴棋書画模様大皿
(長谷川勉氏所蔵)

はじめに

私はもともと囲碁を唯一の趣味としていますが、“琴棋書画は君子の嗜好”という言葉が好きで、これらのことを勉強しています。「君子」は、ほかにも「高士」「文士」「士大夫」「雅人」など教養のある名称で呼び習わされてきました。

中国では明時代、日本では室町・桃山・江戸時代に、壺などの焼き物、屏風や襖、掛軸などの優品が作成されました。現在は博物館などに納められるだけでなく、骨董品も多く出回っています。

「琴(きん)」は琴(こと)

高士がひざに置いて琴を弾く「弾琴図」、高士が従者を従え、袋に入れた琴を持ち運ぶ「携琴訪友図」は有名な図柄です。

中国では、琴はそばに置くだけで心が和むものとして貴重品でした。日本では女性のするものとされていて男性にはなじみが薄く、高士(男性)がするべきこととはなっていません。広く言えば音楽のことであり、音楽の嫌いな人は少ないと思います。

「棋(き)」は囲碁

囲碁には「爛柯」「手談」「忘憂」「清楽」などの別称もあります。対局は時間の過ぎるのも忘れさせてくれるほど楽しいものです。

「碁仇はにくさにくしなつかしき」と言うように、囲碁を趣味とする人は、この雰囲気がよく分かります。このすごく楽しい囲碁は誰が考案したものか、神様だ! 聖人が作った! 天文学から生まれた! ……と、いろいろな説があります。

また、囲碁は昔から「戦略を学ぶもの」とも言われています。「生き」とか「死に」とか「地所」「勝ち負け」を決めるため、ほかの3つとは少し趣が異なります。

「書(しょ)」は読み書き

本を読んだり、いろいろなことを書くことは、人が生活していくために一番身近なことです。古くから、中国では王羲之の「蘭亭序」、日本では聖徳太子などによる国宝級の書が多く残されています。

墨と紙、筆と硯は“文房四宝”と呼ばれ、高級品も数多くあります。デジタルの時代になっても、毛筆、ペン習字などは味わい深い作品になります。

「画(が)」は絵画

絵を鑑賞したり描いたりすること。絵も才能のある人が多くの良品を残しており、それらを鑑賞し、心を和らげた人も数多くいることでしょう。

「琴棋書画」の模様は、宮廷絵巻や竹林七賢人図、七福神図、百子図、唐子図、寿老図などの中に多く、大勢の人が登場し

「琴棋書画」は君子の嗜好



長谷川 勉

元関東地方整備局二瀬ダム管理所長



琴棋書画模様の浮世絵 三代豊国
(長谷川勉氏所蔵)

て「琴棋書画」を楽しむほか、お茶を用意したり飲んだりお酒を飲んだり、おもちゃで遊んだりといった賑やかな様子も描かれています。



色絵竹林七賢人 琴棋書画模様急須
(長谷川勉氏所蔵)

これから

「琴棋書画」に興味を持って勉強しているうちに、一生に一度は自分の本を作りたいと思い、20年前、その成果をまとめた『「琴棋書画」は君子の嗜み』という本を、多くの方にお世話になって出版することができました。

これからも琴棋書画模様の品々をながめ、囲碁仲間と時間を忘れ大好きな囲碁に熱中できたらと思っています。



プロ棋士の棋譜並べも
楽しみの一つ

会 員 情 報

令和3年11月1日～
50音順・敬称略

新会員をご紹介します 新しく10名の方が入会されました。これからよろしくお願いいたします。

氏名	現勤務先
市川 史正	(一社) 日本補償コンサルタント協会
児玉 好史	(公財) 河川財団
後藤 貞二	西日本高速道路(株)
澤田 和宏	大成建設(株)
澁谷 慎一	(一財) 建設経済研究所

氏名	現勤務先
末光 勇次	(一社) 日本道路建設業協会 沖縄支部
菅野 賢次	日本振興(株) 東京支店
土井 弘次	(一財) 経済調査会
野田 勝	(一財) 日本建設情報総合センター
森山 誠二	(一財) 日本みち研究所

お悔やみ申し上げます 謹んで哀悼の意を表します。

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
田島 邦久	令和2年7月	関東技術 建設専門官
橋本 隆雄	令和3年7月	用地部 用地調査官
古林 一郎	令和3年9月	霞ヶ浦 出張所長
田尻 文宏	令和3年9月	北陸 局長

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
相賀 博	令和3年10月	川崎国道 副所長
大胡田富雄	令和3年11月	相武国道 経理課長
多田 正雄	令和3年11月	川古ダム 事務所長
岸本 貞男	令和3年12月	関東 企画部長

編集委員会だより

あけましておめでとうございます。今年も編集委員一同、よろしく願っています。

さて、日本に新型コロナウイルスの感染が発生して今年はや3年目となります。昨年は国民へのワクチン接種が実施され、その効果によるものは明確ではありませんが、10月頃から全国的に感染者が大幅に減少し、感染対策を実施しての飲食店の夜間営業や各種イベントも再開されましたが、昨年末からのオミクロン変異株も含めた感染が拡大してきております。感染予防を心掛けるとともに、ワクチンの3回目の接種が希望者に早期に実施できることを希望しております。

今年は、2月に北京冬季オリンピック、3月には同パラリンピックも開催されます。昨年の東京オリンピック、パラリンピックに続き日本選手団の活躍に期待しております。

最後に、今年は災害のない穏やかな1年であることを祈りたいと思います。

(編集委員 A・N)

編集委員

● [関東地域づくり協会]

澤田晋

辰野剛志

中村一夫

野橋明彦

前田隆徳

山下真治

[会員]

田中良彰(大成建設(株))

望月美知秋((株) 日水コン)

ピックアップ

第21回

関東の道の駅



神奈川県西部の観光名所を巡る中継地点に



道の駅
足柄・金太郎のふるさと



金太郎伝説にちなんで名付けられた「足柄・金太郎のふるさと」。道の駅オリジナルマスコット「あしがらGOLDEN BOY」(右上)グッズも販売

令和2年6月に開業した道の駅「足柄・金太郎のふるさと」。地域の農産物や相州牛などのグルメを軸に、地域活性化を目指します。令和3年4月には南足柄市と箱根町を連絡する県道731号(愛称:はこね金太郎ライン)が開通。地元の人々だけでなく、県西部の観光名所を巡る多くの人々が訪れています。

豊富な農産物で地域活性化

道の駅「足柄・金太郎のふるさと」は東名高速道路大井松田ICから車で約10分、金太郎の伝説が残る自然豊かな足柄の地に開業して以来、登山客や地元の人々などが集う場所となっています。南足柄市環境経済部産業振興課道の駅振興班の小川貴弘さんは「南足柄市では農業振興に力を入れており、活性化の施策の一つとしてこの道の駅を計画しました。また、神奈川県の県西地域活性化プロジェクトにも位置づけられており、旅行者と地元の交流の場、地域の情報を発信する場としての役割を期待しています」と説明します。

特徴は、なんといっても豊富な農産物。240軒ほどの地元農家と直接契約しており、新鮮な野菜がそろいます。秋から冬にかけては、ミカンや柿などの果実をはじめ、地元銘柄の新米、隣の開成町で生産されているサトイモなどが生産者の手で直接並べられています。また、足柄牛や相州牛も名物の一つ。特に、地元牧場で飼育されている相州牛は、年間500頭ほどしか出荷されない貴重な食材。レストラン「ふるさとゴハン食堂」には、これらの地元産の食材を使って開

発したメニューが並びます。相州牛のローストビーフ丼は特に評判の高い一品。足柄茶を使ったスイーツも人気で、令和3年の夏には「足柄茶クリームパフェ」が「関東・東北エリア道の駅ひんやりスイーツ総選挙2021」で1位に輝きました。

地元農家の協力を得て、充実の収穫体験を企画

「利用して下さったお客さまに、『野菜が新鮮』『食事がおいしい』と喜んでいただけているのがうれしい。コロナ禍で観光のお客さまが少ない期間が続きましたが、メダカすくいなどのイベントを開催したり、隣接する耕作放棄地を借りて花畑にしたり、ご家族で楽しめる場づくりを行ってきました」と話すのは大塚貴文駅長(取材時)。

近隣農家の協力を得て、収穫体験にも力を入れてきました。ジャガイモやニンジン、タマネギ、枝豆、トウモロコシなどを作ってもらい、参加者は大いに収穫を楽しみました。「いずれは、植え付けから収穫まで、自分の手で育てる楽しさを感じられる体験を提供したいと思っています」(大塚駅長)

箱根の観光も戻りつつある昨今、地域の魅力をさらに多くの人々に届けるべく、新たな企画を模索中です。



地域のシンボルである矢倉岳をイメージした外観の交流施設は、イベントや会議のために貸し出しも。天井には地元産のスギ材を使用している



南足柄市役所の小川貴弘さん(左)と、駅長の大塚貴文さん。南足柄市の公式キャラクター「よいしよの金太郎」と一緒に

タバコ……ではなく茶葉の自動販売機も。地域特産の茶はJAから仕入れている



ふるさとゴハン食堂には、ここでしか食べられない相州牛グルメも。足柄茶のスイーツも人気!



農産物直売所には大勢の生産者から、毎日豊富に品が届けられる

